

「自分の可能性を信じ、自ら学び、自ら鍛える生徒を育てる」
特色ある学校づくりを目指して



佐世保市立宮中学校

所在地 佐世保市城間町338番地1

校長 熊本 直樹

生徒数 46名 学級数 4

1 目的

- (1) 本校の学校教育目標である「自分の可能性を信じ、自ら学び、自ら鍛える生徒の育成」を具現化するため、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を実践する。
- (2) 様々な体験活動をとおして、生徒信条が示す目指す生徒像「われらは考えて行い、健康で節度があり、最後までやり抜く根性を持ち、思いやりがあり、進んで協力する生徒になろう」を目指す。
- (3) 地域に目を向け、高齢者を含めた地域住民や地域産業の担い手との交流事業に力を入れ、地域連携を推進し『開かれた学校づくり』に努める。

2 実践内容

- (1) 産業や文化への理解を深め、地域における中学生として果たすべき役割を考える体験活動の実施

＜実施時期・対象学年＞ 10月27日(水)～29日(金) 2年生

＜活動場所＞ 地区内および近隣地区の8事業所

(ホテルローライ、HTBホースランド、岩永瓦工業、農家、
深信幼稚園、昭徳こども園、ファミリーマート)

＜活動内容＞ 各事業所における諸活動を実施

当日に至るまでに、個人で各事業所に電話連絡を行い、事前訪問にて面接の実施。
活動後は、礼状作成、学習発表会に向けてのパワーポイントづくりを実施した。



- (2) 高齢化社会に向けた介護・福祉に関する正しい知識と実践力を育てる体験活動の実施

＜実施時期・対象学年＞ 10月13日(水) 介護福祉関係の方による講演会 3年生

10月22日(火) 認知症サポーター養成講座 3年生

10月27日(水) シニア体験、障がい者疑似体験 3年生

＜活動場所＞ 校内(教室、体育館)

＜活動内容＞ 講演会では、佐世保県北圏域介護人材育成確保対策地域連絡協議会より依頼された有限会社『来夢』より2名の講師が来校された。福祉に関する内容に加え、「命」の大切さ・尊さについても講話をしていただき介護の仕事のやりがい・楽しさについて感じることができた。この講話により介護や福祉に関する学習の意識付けとした。

認知症サポーター養成講座では、サンホーム江上より2名の講師に来校してもらい、誰にでも発症する可能性があることや様々な症状があること、予防するためのトレーニングなどの学習を行った。

シニア体験、車椅子体験では、3年生全員が介助する側、される側の両方の立場での体験を行った。



(3) 地域の史跡等の美化活動や地域の老人会の方との協働作業をととした世代間交流の推進

＜実施時期・対象学年＞ 11月2日(火) 1年生

＜活動場所＞ 宮地区史跡

＜活動内容＞ 宮地区自治協議会の協力を得て、宮地区内の史跡学習に加え、教育会宮支部の副支部長であり、前宮地区コミュニセンター長 松野廣文先生の講話をいただき、学習を深めた。その後、大村純定公、小佐々弾正公、小佐々甚五郎公の墓石の清掃活動を班別に行った。地区の歴史を見聞きしたり、地域の方々とともに汗を流したりすることで、改めて地域再発見ができ、郷土愛を深めることができた。



(4) 各家庭と学校が連携を深めるための家庭教育講座等の実施

6月24日(木)長崎県メディア安全指導員による講話【全学年・保護者】

＜実施時期・対象学年＞ 6月24日(木) 全学年

＜活動場所＞ 校内

＜活動内容＞ 「SNSと正しく向き合う」をテーマに、長崎県メディア安全指導員の岩崎けい子氏を講師に招き、講演会を行った。テレビゲーム・スマートフォン・タブレットの活用について、その危険性や学習成績との関連性、さらに中学生の心と体の

健康に至るまで、中学生にわかりやすく、そして保護者にも使い方について、ルール決めなどの工夫の手立ても理解できた。



(5) 正しい知識と実践力を育てる人権・平和・同和教育の推進

①知覧特攻平和会館見学

<実施時期・対象学年> 7月14日(水)～15日(木) 3年生

<活動場所> 鹿児島県知覧特攻平和会館

<活動内容> 語り部の方の講話を聴き、また館内に展示してある写真や遺物、隊員が書いた直筆の遺書などの見学を行い、同世代の若者が当時どのように考え、どのような思いでどのような生活をしていたのか、真剣に考えることができた。

②長崎市内班別平和学習

<実施時期・対象学年> 12月2日(木) 2年生

<活動場所> 長崎市内8か所の原爆関係箇所

(原爆資料館、原爆落下中心地、平和公園、浦上天主堂、如己堂、山里小防空壕跡、城山小平和会館、一本柱鳥居)

<活動内容> 2学年11名全員が原爆資料館を見学した後、原爆落下中心地において献花を行った。その後、3班に分け、上記残りの6か所を異なるルートで訪問し各班で得た知識や写真等の記録を残した。

③人権学習集会

<対象学年> 12月7日(火) 全学年

<活動場所> 校内

<活動内容> 「SDGsについて考えよう」をテーマに、各学年の学習部が中心となり、SDGsに関するクイズを交えたりカードを活用したり、SDGsの歌も披露したりしながらわかりやすく学習を深めた。



3 成 果

(1) 産業や文化への理解を深め、地域における中学生として果たすべき役割を考える体験活動の実施

地区内及び近隣地区8か所において、実施した職場体験活動では、その職業に対する専門的な知識や技術が必要であることが体験を通して実感することができた。

保護者、教職員とは、異なる大人とのコミュニケーションをとることで、学校生活では味わえないものの見方や考え方を深める良い機会となった。

(2) 高齢化社会に向けた介護・福祉に関する正しい知識と実践力を育てる体験活動の実施

福祉に関する内容に加え、「命」の大切さ・尊さについての講話を通して介護の仕事のやりがい・楽しさについて感じることができた。この講話により介護や福祉に関する今後の学習の意識付けとなった。認知症サポーター養成講座では、予防するためのトレーニング方法を実際に行い、楽しみながら簡単に行えることを学んだ。誰にでも発症する可能性があることから、容易にできるトレーニング方法を覚えておきたいと前向きに考えることができた。

シニア体験、車椅子体験を通して、介助する側、される側の両方を体験することができお年寄りや、介助が必要な方に寄り添った目線で接することの大切さと、身近な存在でもある祖父母に対しても同様に接していきたいという思いを強く持つことができた。

この活動を通し、生徒自身が地域の抱える高齢化の問題について深く考え、高齢者を支える地域のあるべき姿や、若者が取り組むべき活動を具体的にイメージすることができるようになった。体験することにより積極的に活動しようとする意欲を高めることができたことは大きな成果である。

(3) 地域の史跡等の美化活動など、地域の高齢者との協働作業をとした世代間交流の推進

地域の高齢者との協働作業を通して、中学生として自分たちができる地域貢献について考えるとともに、生徒一人ひとりの実践力を高めることができた。11月2日(火)に実施した地域貢献活動では、地域の歴史や文化についての学習を通して、社会科の学習に対する興味関心もさらに高め、地元の貴重な文化遺産の維持・保存に積極的に関わっていこうとする心情を育てることができた。

(4) 各家庭と学校が連携を深めるための家庭教育講座等の実施

「SNSと正しく向き合う」をテーマに行った講演会では、長崎県メディア安全指導員の方を講師に招き、テレビゲーム・スマートフォン・タブレットの活用について、その危険性や学習成績との関連性、さらに中学生の心と体の健康に至るまで、中学生にわかりやすく、そして保護者にも使い方についてのルール決めの重要性を認識することができた。

保護者の中には、「帰宅後に子どもと話し合いを行い、ルールを決めます。」という感想もあり、全体的に高評価であった。生徒の中にも成績との関連性から、使用を控えていく感想が多くあったことは、大きな成果である。

(5) 正しい知識と実践力を育てる人権・平和・同和教育の推進

鹿児島知覧特攻祈念会館や、長崎原爆資料館、平和公園近辺での訪問・班別自主研修を通して、当時の悲惨さを知るとともに二度と起こしてはいけないという思いを強くすることができた。「SDGsについて考えよう」をテーマに、各学年の学習部が中心となって行った人権学習では、SDGsに関するクイズを交えたりカードを活用したり、SDGsの歌も披露したりしながらの学習を行うことにより、とても分かりやすく、これからの生活においても意識して取れ組んでいけるよう工夫があった。17項目のカードを各教室・特別教室に設置し、日々意識の高揚を図っている。